



—No.42—

平成21年7月10日発行
群馬県中学校長会
会長 高德 彰
前橋市文京町二丁目19-18
電話 027(223)7158



「開拓・チャレンジ・創造」を合言葉に

群馬県中学校長会長 高德 彰

現在教育界においては、教育基本法及び教育関連法規の改正、新学習指導要領の告示、教育振興計画策定、免許更新制など、一連の教育改革が進行し、学校教育を取り巻く状況は今までにない重要な局面を迎えております。

このような状況を踏まえると、今年度は、新学習指導要領の移行措置が円滑に行われ、来たるべく平成24年度からの中学校新教育課程の全面実施に向けて、学校経営者としての真価が問われる重要な年になります。

県中学校長会の会員は、確固たる信念を持って、日本の新しい教育の創造、「生きる力」の育成に向けて、県民の信託に応えられるよう、情報発信し、理解と協力を得る必要があります。と、同時に教育課程の創意・工夫に向けてリーダーシップを発揮しなければなりません。新学習指導要領の全面実施に至るまでには、多くの解決すべき課題が山積しております。私たち校長は、確かな学力の定着・豊かな

心の教育の充実・健やかな体の育成など「生きる力」の育成を推進するため学校経営方針を内外に示すことがますます重要であります。

校長として、自信と熱意をもって、学校力や教師力をさらに一段と高め、自校の現状を十分に認識し、様々な施策や教育改革の動向を的確に見極め、不易と流行の判断を明確にしながら、創意・工夫に満ちた特色ある教育課程の編成に全力投球しなければなりません。「開拓・チャレンジ・創造」を合言葉に、郡市校長会及び会員相互のネットワークを大切にしながら積極的に活動を展開することが重要であります。

また、各教育委員会など関係教育機関・団体とは、これまでと同様に協力すべきことは大いに協力し、言うべきことは、きちんと意見表明をすることが大切であると考えます。

前途多難ではありますが、会員の皆様方のますますのご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

全日中総会報告

第60回全日本中学校長会に参加して

書記 中村 洋

第60回全日中総会は、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて5月20日(水)に総会及び講演、21日(木)に行政説明及び拝謁・皇居特別参観の日程で開催された。

総会では国歌斉唱の後、壺内明会長より、「行動する全日中」、「実行力のある全日中」の姿勢で取り組んできた活動を振り返るとともに、教職員定数改善や新学習指導要領移行措置の円滑実施、全日中教育ビジョンの策定等今後の課題について触れながら挨拶があった。昨年度役員の表彰に続き、文科省金森初中局長は祝辞の中で、中学校教育の改善・充実に関する文科省の取り組みから、①新学習指導要領のねらい②生徒の規範意識の育成③教員の資質能力の育成④21年度補正予算案の4点に触れた。

議事に移り、平成20年度会務報告、平成21年度岩瀬正司新会長（世田谷・尾山台中校長）以下役員の選出、活動方針・予算案の承認、全日中福島大会の主題の提案等が審議、決定された。新会長はあいさつで、信頼関係の重要性や外圧によらない自主的な教育改革の推進等について考えを述べた。

午後は文科省徳久大臣官房審議官より「当面する初等中等教育上の諸課題」をテーマとした講演があり、新学習指導要領、生徒指導、定数改善、免許更新制、新型インフルエンザ対応、学力学習状況調査等について述べた。

二日目の行政説明では文科省初中局を中心に本年度の施策等についての説明があった。初等中等教育企画課長から法規法令の遵守及び教職員、保護者、地域マネジメントについて、財務課長から理科教育設備整備について、特別支援教育課長からは特別支援教育に係る現状と課題について、教職員課長から教員免許更新制について、児童生徒課長から新型インフルエンザ、児童虐待等への対応について、学校健康教育課長から新型インフルエンザの対応等学校保健、学校安全の取り組みについて、最後に教育課程課長から新学習指導要領の円滑実施のための指導体制整備、教員給与見直し等について、それぞれ概要説明が行われた。

本県からは総会に幹事、代議員他43名、拝謁・皇居特別参観に8名が参加した。

関ブロ神奈川大会報告

第61回関東甲信越地区中学校長会 研究協議会神奈川大会に参加して

会計 小見喜久治

第61回関東地区中研究協議会は、6月11日(木)・12日(金)の2日間にわたって、神奈川県横浜市の神奈川県民ホールにおいて開催された。

開会式では国歌斉唱の後、清水昭二大会会長、間邊光夫実行委員長から、本大会の研究協議題のもとに、質疑・討議により研究を深め、意義ある大会となると共に今後の各学校における主体的な学校運営を実践するにあたり今大会をその一助としてほしいとの挨拶が述べられた。

続いて、文部科学省初等中等教育局 太田光春視学官から「当面する初等中等教育の諸課題」のテーマのもと、最初に学力の現状と課題について、その後、学習要領の円滑な実施について、具体的に次の内容について個々の説明があった。例として、キャリア教育、教員免許更新制、事務負担の軽減、学校評価の定着・推進、特別支援教育などであり、新学習指導要領の円滑な実施に向け大事なポイントについての理解が深められた。

全体協議会では、横須賀市立大津中学校 村尾誠校長より「教育活動の質を高める校長のリーダーシップ」を主題とし、(1)学校・校長会・教育委員会の「行動連携」に向けて(2)校長のリーダーシップ(3)校長・指導主事それぞれの現状認識、を研究の視点とした全市的な取り組みとその中での校長の役割が意義深い実践をもとに紹介された。

次に記念講演として神奈川科学技術アカデミー理事長の藤嶋 昭氏の講演があった。氏は研究を進める上で特に必要なこととして、基礎基本の大切さや広い教養を身につけること、身の回りに関心を持つことの大切さなどを話された。氏の経験をもとにした示唆に富む講演であった。

二日目は9分科会に分かれ、それぞれの提案について活発な研究協議が行われた。第6分科会「進路指導」では、本県南牧・南牧中の茂木正好校長が「キャリア教育にかかわる体験活動の推進」をテーマに発表し、好評を得た。また、同分科会の司会を甘楽・第一中の野口英明校長が務めた。講評及び来年度開催の栃木県の挨拶の後、分科会ごとに閉会した。本県からは51人が参加した。